

国際開発と豊かな地球の未来

国際開発工学科4年 大即研究室

平井雄之

ニューヨーク・マンハッタン



経済発展
市場経済

VS

国際問題

渋谷・スクランブル交差点



貧困問題



エネルギー枯渇



環境破壊



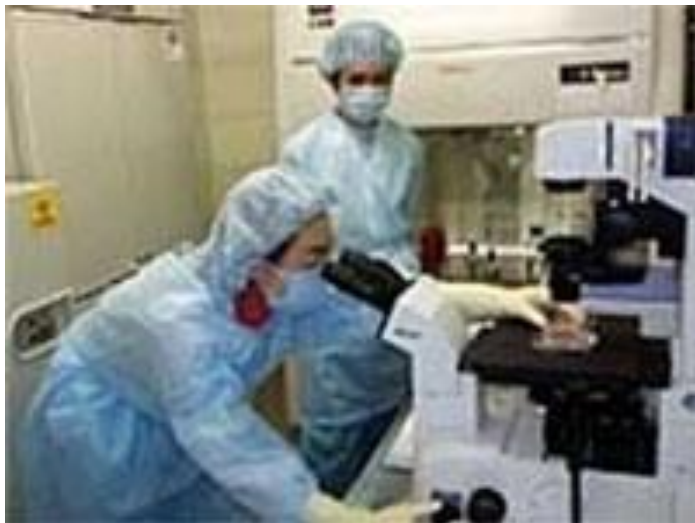
・MDGsミレニアム開発目標(国連)

Millennium Development Goals



2015

・日本のODA(政府開発援助)の例(外務省)



先進国は後から続く国に対して
当然援助をすべきである。
(経済的背景、歴史的背景)

現在での国際開発のポイント

・MDGs ミレニアム開発目標(国連)

世界の最貧層のニーズをみताす。
目標に期限を設けることで国際開発
を加速させる。(2015年までの目標)

・日本のODA(政府開発援助)

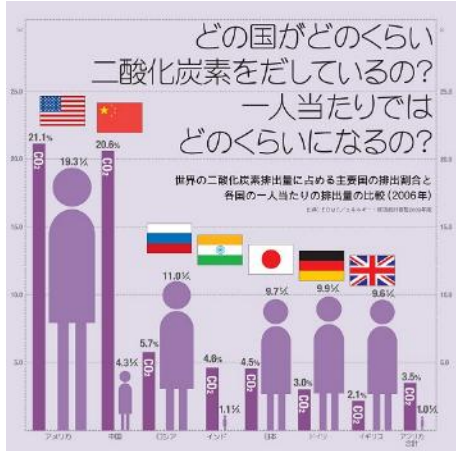
「わが国自身の国益にかなうもの」

国際開発を考える際に浮き上がる問題点

新興国の経済成長

経済発展 VS

環境破壊
エネルギー問題
経済格差



発展途上国の抱える問題の多様性

中国・インドなどの大国
地域差
島国
宗教紛争地域
天然資源

貧困原因 絶対的貧困と相対的貧困

的確な問題の分析
適切な開発手段の選択



国固有の文化・価値観



先進国入り=豊かな国？幸せとは？

問題解決に対する多角的なアプローチ
先進国(日本)としての価値観の再構築

未来の世界に対する提案

地球規模・長期的にみた国際開発援助

- ・絶対的貧困に対する持続可能・自立型の支援
続・ミレニアム開発目標の制定
- ・紛争・戦争の撲滅
- ・相対的貧困・格差社会に対する適切な支援
- ・循環型社会を目指した支援

豊かな国としての指標の再構築

例：国民総幸福量（GNH）
ブータン国王

- ・新興国・発展途上国から学ぶ先進国が失った価値観
- ・自国の文化の保護・尊重
- ・環境との共存
- ・循環型社会への移行
- ・先進技術の有効利用

工学部である私たちの役割

- ・世界の問題を解決する最新技術の開発（専門知識）
- ・問題発見方法の体系化（多角的な思考+専門知識）

根本的な原因・解決可能性

- ・最適解決策選定方法の体系化（多角的な思考+専門知識）

要求される効果・持続可能性・地域差の考慮・国力の考慮・地球規模で見たバランス